

1 単元名 現代の日本と私たち

2 本単元の目標

- (1) 冷戦や我が国の民主化と再建の過程、国際社会への復帰などを基に、第二次世界大戦後の諸改革や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解する。(知識及び技能)
- (2) 諸改革の展開や国際社会・国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けることで、日本の民主化と冷戦下の国際社会、グローバル化する世界について、多面的・多角的に考察し、表現する。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 現代の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む態度
知①冷戦、我が国の民主化と再建の過程、高度経済成長、国際社会との関わりなどを基に、第二次世界大戦後の世界の動きの中で新しい日本の建設が進められ、経済や科学技術の発展で国際社会において我が国の役割が大きくなったことを理解している。	思①諸改革の展開や国際社会・国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けることで、日本の民主化と冷戦下の国際社会、グローバル化する世界について、現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	態①現代の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

4 単元について

(1) 教材観

本単元は、『中学校学習指導要領（平成29年告示）』における社会科歴史的分野の中項目「C 近代の日本と世界」の「(2) 現代の日本と世界」を基に設定している。ここでは、戦後から現代までの間で、冷戦や民主化、科学の発展などを通して、新しい日本の建設が進められたことや国際社会における我が国の役割が大きくなったことを理解し、現在と未来の日本や世界のあり方について、課題意識をもって多面的・多角的に考察、構想することを目的としている。また、現代社会の礎について扱う本単元は、公民的分野の導入ともなる重要な単元である。多面的・多角的に現代社会を観察することで諸課題を把握させ、解決策を構想することを視野に入れた展開を行っていく。

(2) 生徒観

本学級の生徒は社会科の学習に意欲的に取り組んでいる。しかし、自分の意見を発表したり、要点をまとめて伝えたりする活動を苦手としている生徒が多く、グループワークにおいて建設的な議論があまり見られないという姿がある。

実態調査：令和*年*月*日実施（第3学年*組 *名）

- ① 現代社会の課題は何か。
地球温暖化（*人）、税金（*人）、SDGs未達成（*人）、米の値段（*人）、少子高齢化（*人）、その他（*人）
- ② ①で挙げた課題の原因を歴史的背景から説明せよ。
説明できた生徒（*人）、分からない・誤答（*人）
- ③ 大正時代の日本について説明せよ。なお、「政治」「経済」「社会」「文化」の視点を取り入れること。
・3つ以上の要素を関連させて説明（*人） ・2つの要素を関連させて説明（*人）
・1つの要素で説明（*人） ・無回答・誤答（*人）

上記の実態調査から、社会的事象の歴史的要因と現代社会の課題を関連付けることを苦手としている生徒が多く、歴史的分野の学習内容が単なる暗記にとどまってしまっている傾向にあることが分かる。さらに、社会的事象に対して、多面的・多角的に考察することを苦手としていることもうかがえる。また、令和*年*月に実施された学力診断のためのテストでは、複数の資料を比較したり、関連付けたりする問題の正答率が低く、本学級の生徒の課題として、資料から読み取ったことをもとに考察し、根拠をもって表現する力が十分に身に付いていない現状が挙げられる。

(3) 指導観

本単元では、現代社会が様々な歴史的事象を背景に成立していることを理解させ、「20年後の日本」を構想することで、過去、現在、未来をつなげて考えることができるようにすることを大きなねらいとしている。「20年後の日本」をイメージした単元を貫く学習課題を設定し、生徒が見通しをもって学習に取り組めるようにしていく。取り扱う歴史的な事象が今の日本とつながっていること、さらに現代日本には課題があることの2つを関連させながら考察し、未来の日本を構想する機会を設ける。また、思考力、判断力、表現力等の育成のために、付箋を使った根拠をもった討論などの学習を取り入れる。さらに、現代社会を生き抜く際に必要となる力を身に付けるために「最適解」を考える活動を行い、自己の将来や日本の未来について考える機会を確保する。

これらを通して、歴史的な分野の目標「歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者としての資質の基礎を育成する」に迫れるよう学習を進めていく。

5 単元の指導計画（13 時間扱い）（○は指導に生かす評価場面、◎は記録に残す評価場面）

次	時	学習内容・活動	知	思	態	評価方法・留意点等
1	1	1 現代社会の特徴を発表する。 2 年表や写真などの諸資料から、現代社会を大観し、歴史的背景のイメージをつかむ。 3 学習へのイメージをつかむ。 現代の日本はどのような国なのだろうか。 4 見出した歴史的な事象から現代の日本について疑問に思ったことを書き、次時の学習につなげる。	○			知：歴史的な事象を理解できていない生徒には、読み取った情報を共有することで、基礎的・基本的な知識を身に付けられるようにする。 【ワークシート】 ◎ 態：記述できない生徒には、外国の写真を提示し、比較することで、意見をもつことができるようにする。 【観察】
	2	1 前時に考えた疑問を全体で共有する。 2 現在の日本について政治・経済・社会の視点で分類する。 3 単元を貫く学習課題を設定する。 単元を貫く学習課題 20年後の日本において、よりよい未来をつくるためには、どのような課題をどのように解決していけばよいだろうか。 4 単元を貫く学習課題を解決するための方法について見通しをもつ。 5 振り返りカードに、現時点での単元を貫く学習課題に対する自分の考えを、理由を明確にしながらまとめる。		○		思：分類できない生徒には、例を提示し、考えを整理できるようにする。 【ワークシート】 ◎ 態：課題の予想を立てることができない生徒には、20年前の写真を見せ、現代と比較することで予想を立てられるようにする。 【振り返りカード】
2	3	学習課題 なぜ、戦後の日本では闇市が広がったのだろうか。 ・ 占領下の日本について調べ、ウェビングマップにまとめる。 まとめ アメリカの占領政策や失業者増加で生活が苦しくなったから。		○		思：ウェビングマップが作成できない生徒には、具体例を一つ提示し、イメージが広がるようにする。 【ワークシート】

3	4	学習課題 GHQはどのようなねらいで占領政策を進めたのだろうか。 GHQの占領政策とねらいについて、個人で調べ、グループでまとめる。 まとめ GHQは民主化と非軍事化をねらいとして占領政策を進めた。	○		知：GHQの占領のねらいを発見できない生徒には、それぞれの政策についての補助発問を行う。 【観察、ワークシート】
	5	学習課題 冷戦によって、世界はどのように変化したのだろうか。 冷戦について、東西対立とアジアの変化の視点で、グループで調べ、まとめる。 まとめ アメリカ中心の資本主義の西側諸国とロシア中心の社会主義の東側諸国による新しい体制が誕生した。	○		知：冷戦による国際社会の変化について資料から読み取れない生徒には、ドイツや朝鮮半島に着目するように助言する。 【ワークシート】
	6	学習課題 なぜ、日本は国際社会に復帰することができたのだろうか。 なぜ、日本の独立には6年半もかかったかという視点で、調べてまとめる。 まとめ 資本主義陣営の中心であるアメリカが強化に向け、日本を経済復興させ、西側陣営の一員にしようとしたため。	○		思：日本が国際社会に復帰できた理由について考察できない生徒には、日本の立場やアメリカの考え、冷戦の状況など多面的な視点から考えるよう助言する。 【ワークシート】
	7	学習課題 緊張緩和で日本の外交はどのように変わったのだろうか。 緊張緩和の経緯と日本の外交について、調べて年表にまとめる。 まとめ 緊張緩和に合わせて、ソ連や中国などの社会主義国とも外交関係を広げた。	◎		知①：冷戦や我が国の民主化と再建の過程、高度経済成長、国際社会との関わりなどについて理解している。 【ワークシート】
	8	学習課題 なぜ、高度経済成長を取り上げた漫画や映画が多いのだろうか。 高度経済成長の光と影について、マトリックスにまとめる。 まとめ 復興する一方で、課題も発生するなど、生活が激変した時期だから多くの作品のテーマとなっている。	○		思：まとめることができない生徒には、具体例を示し、イメージをもたせる。 【ワークシート】

	9	学習課題 現代日本の文化にはどのような特徴があるだろうか。 ・ マスメディアの発達を与えた影響について、具体例を基に調べ、まとめる。 まとめ 現代の文化は、大衆化が進み、生活に根付いているという特徴が見られる。				○ 態：マスメディアの発達と身近な文化を関連付けることが難しい生徒に対しては映像を見せ、イメージをもたせる。 【観察】
4	10	学習課題 冷戦後の世界と日本はどのように変化し、どのような課題があるだろうか。 ・ 冷戦終結後の世界の変化と課題について座標軸にまとめる。 まとめ 国際協調が進んだが、地域紛争などの課題も見られる。	◎			知①：第二次世界大戦後の世界の動きの中で新しい日本の建設が進められ、経済や科学技術の発展で国際社会において我が国の役割が大きくなったことを理解している。 【ワークシート】
	11	学習課題 なぜ、SDG s が注目されているのだろうか。 ・ 自分や社会のために何ができるのかを歴史的事象を基に考察し、まとめる。 まとめ グローバル化や情報化・少子高齢化の下、持続可能な社会を創り上げることが日本の課題となっているから SDG s が注目されている。		○		思：グローバル化する世界について、現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察できない生徒は、表現している。 【ワークシート】
5	12	学習課題 戦後日本の歴史的出来事を振り返り、本単元の学習内容を整理しよう。 ・ 日本の歴史について、政治・経済・社会の3つの視点から、学習した出来事をYチャートにまとめ、20年後の課題を考える。 まとめ 日本の未来は政治・経済・社会の面で様々な変化が予想される。			◎	態①：現代の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 【観察・ワークシート】
	13	目標：20年後の日本について、資料を基にして多面的・多角的に考察し、自分の言葉で表現することができる。 1 学習課題を確認する。 学習課題（単元を貫く学習課題） 20 年後の日本において、よりよい未来をつくるためには、どのような課題をどのように解決していけばよいだろうか。				・ 課題解決における追究の視点を明確にするため、戦後の日本についての既習事項を確認する。

	2 前時に挙げた課題に対する自分の考えを、根拠を明らかにしながらまとめる。 まとめ 戦後の日本は、高度経済成長で、大きな発展を遂げる一方で、公害などを引き起こし、人々の生活に大きな影響を与えた。20年後の日本でも科学技術の発展の裏にある、環境保全は大きな課題となる。そこで、20年後の日本をよりよくするには、経済発展と環境保全のバランスを考え、環境に配慮した製品を製造・輸出していくことが大切になる。 3 全体で考えを共有する。 <予想される出来事の例> 政治：戦後改革、ソ連との外交 社会：文化の発展、新型コロナウイルス 経済：石油危機、貿易赤字 4 再度、自分の考えをまとめる。 5 振り返りカードを記入する。	◎	思①：諸改革の展開や国際社会・国民生活の変化などに着目し、事象を相互に関連付けることで民主化と冷戦下の国際社会、グローバル化する世界について、現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 【ワークシート】 B：現代社会の変化について、歴史資料から読み取り、よりよい社会について自分の言葉でまとめることができる。 【ワークシート】 ※C→Bへの手立て：写真資料を提示し、歴史的な事象と現代の課題を関連付けさせる。 ・異なる立場の意見を聞くことで、多面的・多角的な視点で話し合いができるよう助言する。 ・振り返りの内容を確認し、資料活用の際の着目点を自分の言葉で表現できるようにする。
--	---	---	---